



次は若いリンクと世界を目指します

宮越 衣絵 (S-05)

大阪芸術大学 舞台芸術学科
ミュージカルコース 2009年卒業

ドッグダンスインストラクター
Marie dog studio主催 ドッグダンス
チームLink Sound 共同代表 JKCドッグ
ダンス審査員
主な成績：2018年OEC スイス大会
日本代表/2023年OEC ハンガリー
大会 日本代表
国内最高位2位/ 他、ドッグダンスコン
ペティションで入賞多数

ダンスと共に私が大切にしている活動にドッグセラピーがあります。活動状況や愛犬に関する様子、ドッグダンス等に関してはこちらに。



@MARIE_DOG_STUDIO



@LINK_SOUND



セラピー犬のお仕事

愛犬と世界で踊る舞台芸術学 OG

私は2005年、舞台芸術学科ミュージカルコースに入学しました。在学中「氷山ルリの大航海」のルリ役に2回生で抜擢され、先輩達に混じったものの、自分だけ上手く芝居ができず葛藤がありました。そんな時、恩師の浜畑先生に言われた言葉を思い出します。「リアルに、心を動かすんだよ」と。今はドッグダンスという世界に舞台が変わりましたが、大阪芸術大学で学んだ事が生きています。浜畑先生の授業で、コーラスラインのワンシーンをやったのが印象強く記憶に残っています。浜畑先生演じるザック、生徒がキャシーを演じました。今思えば、すごく贅沢な授業だったなと思いに残っています。



「氷山ルリの大航海」ルリ役を演じる宮越さん(中央)

世界大会へのストーリー

愛犬エルフィは10歳も近いボーダーコリー。もう海外へは行かないと決めていましたが、5年前にスイス大会に行った時に、「もう一度ヨーロッパに来ようね。」とエルフィに言っていた事を思い出し、エルフィとは最後のチャンス。ドッグダンスの世界大会、2023 OEC in ハンガリー大会への出場を決意しました。ハンガリー大会での演技中、ブロードウェイのミュージカル『ウィキッド』(Wicked)の曲、



エルフィと世界を魅了した4分間の演技

「Defying Gravity」に乗せて、主人公エルファバの心を通し、愛犬エルフィの体も借りて、リアルな私の心や想いが溢れ出した感覚がありました。沢山の方から「感動した、涙が出た」との言葉を貰い、これが私がやりたかったドッグダンスなのだと思います。結果はエルフィの頑張りで、世界から集まった54組中26位。エルフィと向き合ってきた中での辛さ、悔しさ、喜び、感謝、色んな思いが詰まった4分間でした。エルフィと諦めずにダンスを頑張ってきて良かったと心から思えました。

チームの大会へ向けての準備段階から大変でしたが、ドッグダンスジャパンのバックアップやユニフォームデザインは芸大の先輩ヒロセマリさん(V9)にご協力をいただき、無事にハンガリーへ出発することが出来ました。

大会中はチームリーダーの役割も多く、また出国から帰国まで渡航する犬達も含めチームに気を配ることは、自分の演技や愛犬のエルフィだけに集中出来ないのが大変な思いをすることもありました。でも大学時代にミュージカルで培ったチームワーク力と度胸で乗り越えることが出来たと思います。

とても良い経験でしたし、出発前より自分が強くなって帰って来れました。

昨年から劇団四季で活躍していたS-05ミュージカルの同級生、秋山舞さんにLink Sound主催で定期的なレッスンをお願いしています。舞さんも、今ではドッグダンス世界大会出場選手の振付も多数担当するようになりました。ハンガリー大会やデンマークの大会でも、どれも素敵な振付です。彼女も日本のドッグダンスの芸術的レベルをグッと上げてくれる存在です。



舞台芸術学科 × 映像学科のコラボ

映像学科 OG ヒロセマリ (V9)

2023Dog Dance ハンガリー大会、チーム JAPAN のデザインを担当。

映像学科卒業後、N.Y. 留学。TV局勤務を経て独立。グラフィック、インテリア等のデザインを手がけ、今回、愛犬家である浜畑学科長のご縁から、宮越氏と知り合う。愛犬は宮越氏のエルフィと同じボーダーコリー Abbie。



大阪芸術大学 舞台芸術学科
学科長 浜畑 賢吉

俳優座養成所を経て劇団四季へ。1970年前後からテレビでも活躍し、大河ドラマ初のカラー作品『天と地と』(1969年)に出演。『コーラスライン』では1979年の初演以来、800回出演してきたほか、『ハムレット』『ジキルとハイド』など多数の演目に出演を果たす。ブロードウェイミュージカル『ビクター・ビクトリア』などの演出も手がける。

「冰山ルリの大航海」

つい先日、昔撮った旅行ビデオ「2005年2月南米パタゴニアの旅15日間」を見ました。大きな氷河の滑落到驚き、海に浮いている氷山の美しい姿に感動もし、そのかけらを掬ってもらってウイスキーのオンザロックも味わったのです。

その翌年5月、氷山がまだ目の奥に焼き付いている時に理事長のご指示を受けて、高円宮妃久子殿下原作の絵本「冰山ルリの大航海」をミュージカルにする作業が始まりました。上演が10月ですから余裕などありません。まず飛んで行ったのが放送学科故岩崎富士男(作家クロード・Q)学科長。

二人で構想を練り私が台本を書く前にクロード・Qさんは作詞完了、作曲のヴァイオリン奏者川合郁子先生へ。学科の業務ではないので、お稽古は全て放課後。矢田の短大体育館を借りたこともありました。



舞芸学内公演 宮越さん(中央)

懐かしいメンバーの顔が浮かんできます。主人公ルリを演じてくれた宮越衣絵さん、今はドッグダンスで世界を駆けまわっています。オサガメの谷口祐奈さんはレミゼラブルでテレビエの女房役などで活躍。オーシャンの長谷川貴司さんは京都で料理人。ホワイトの武田良太さんはディズニーを辞めて関西で活動。イビスの保木本真也さんは劇作家。スタークの菊池雄太さんは東京で役者。キキの安養寺美樹さんはトレーナー。オーロラ妃の原田真由子さんは劇団四季・・・などなど、皆さんそれぞれの分野で立派に活躍してくれています。

そしてメンバーを変えての何度かの再演を経て、大変革のオペラ化を致しました。

クロード・Qさんはいないので私が7曲の作詞を加えたのが2018年。

指揮に大友直人先生を迎えてのフルオーケストラ。舞台装置も一新しての上演でした。

その公演で北極狐のオーシャンを演じてくれた安田楓太さんは卒業後劇団四季で活躍。ルリを演じた菅原あや乃さんも四季入団が決まったそうで、「冰山ルリの大航海」は大阪芸大の歴史にも大きな痕跡を残して来たと言えるでしょう。



舞芸学内公演



芸大のラジオ番組収録中にて、
宮越衣絵さんと舞台芸術学学科長の浜畑賢吉先生

2024年3月8日(金)兵庫県立芸術文化センターで、またまた新たなメンバーでの挑戦が始まります。

卒業生の皆様、特にこの作品に関係された方々はぜひ駆けつけて頂きたいと願っております。

ちなみにサブタイトルは「ビッグブルーミュージカル」から「ビッグブルーオペラ」に変わっています。